とうほく経済

冷食自販機「売れ筋」ＡＩが分析

利用者撮影 性別や年代収集

仙台・ＮＴＴ東など実証実験

ＡＩ分析用のカメラを調整する担当者

ＮＴＴ東日本などは、仙台市青葉区のＮＴＴ青葉通ビル前に設置されている冷凍食品の自動販売機「東北うまいもの食堂」で、人工知能（ＡＩ）を活用して売れ筋の商品を分析する実証実験を始めた。自販機の品ぞろえに反映させ、売り上げアップを目指す。

自販機を設置する食品卸売業かね久（仙台市）、電力を提供する東北電力を加えた３社で実施する。自販機上部に付けた二つのカメラで通行人や利用者を撮影し、骨格などから推定した性別や年代のデータを個人を特定しない形で集める。

自販機は食品ロスの削減に向け、東北の農水産品の規格外品や端材を生かした牛タン弁当（１３００円）、フカヒレ中華旨煮（約１６０㌘、１０００円）、酢だこ（約２００㌘、５００円）などを取り扱う。

ＮＴＴ東の担当者は「ＡＩ分析と販売記録と突き合わせることで、例えば『30代の男性にはこれが売れる』といった情報が分かる」と話す。自販機前を通った人のうち何人が自販機に近づいたかを示す「入店率」も確認するという。

自販機は国連の持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の推進がコンセプト。温室効果ガスの排出削減量を国が認証して企業間で売買する「Ｊ－クレジット」制度を活用することで、使用電力を実質的に再生可能エネルギー由来としている。

実証実験は３日スタートし、６月２日まで。

河北新報　2023（令和５）年３月10日 掲載